令和5年度第2回 独立行政法人国立重度知的障害者
総合施設のぞみの園運営懇談会議事要旨

令和6年3月18日(月)
13:30~15:00
文化センター

I 開会

II 理事長挨拶

III 議事

1. 入所利用者の状況
2. のぞみの園における業務の取組状況
 - (1) 著しい行動障害を有する者等及び医療的ケアが必要になった者への支援について
 - (2) ターミナルケアについて
 - (3) 令和5年度 調査・研究の実績
 - (4) 令和5年度 セミナー・研修会等の実績
 - (5) 令和5年度 実務研修等の実績
 - (6) 令和5年度 援助・助言の実績
 - (7) 診療所の見直しについて
 - (8) 第10次寮再編計画について
 - (9) 能登半島地震における被災者の受け入れについて
3. 令和6年度予算(案)について
4. 新型コロナウイルス感染症への対応(令和5年度下半期)
5. 事故等の報告について

IV 閉会

【議事に対する主な質疑(○:委員●:法人側)】

のぞみの園における業務の取組状況について

(1) 著しい行動障害を有する者等への支援について

- : 第5期の5年間において各年度、何名くらい受入れ予定か。
- : 毎年度、著しい行動障害を有する者と矯正施設を退所した者を合わせて25名を受入れ目標としている。医療的ケアが必要になった者については、第5期中の5年間で20名を受入れ目標としており、令和5年度においては2名を受入れ目標としている。
- : 著しい行動障害を有する者と、矯正施設を退所した者はどのような違いがあり、どのように取り組んでいるのか。
- : 著しい行動障害を有する者の支援については、主に環境を整えるなどの構造化及び課題等を提供し、本人に合わせた環境設定をしながら支援を提供している。矯正施設を退所した者の支援については、今後、グループホーム等において社会で生活できるスキルが身につくよう支援を提供している。

- ：矯正施設を退所した者については、罪を犯したという自覚はあるのか。
- ：矯正施設を退所された者については、比較的知的障害が軽く、罪を犯した意識というのは皆さん結構持っていらっしゃる。ただ、様々な背景があり、障害がゆえに、犯罪に対しあまり自覚がなく罪を犯してしまう者もいらっしゃる。
- ：本人を矯正するというよりも、再犯に至らないような環境をつくっているのか。
- ：おっしゃる通り。昨今では環境を整理することが多くなってきている。

(2) ターミナルケアについて

- ：ターミナルケアを進めるにあたって、利用者はどのように受け止められたのか。また、どのように情報発信していく予定か。
- ：日々の生活の中で、声掛けをしたり普段と変わらないような形で過ごすことで、特別な事ではなく最期をどう迎えるかを、利用者スタッフ皆さんで考え支えていくということを話し合った。
情報発信については、作成中のマニュアル等で発信していく予定。
- ：利用者やご家族に対してどのようなアプローチを行っているのか。
- ：ヒアリングシートやサポートブックを活用しながら、今後のあり方についてどのような生活を送りたいか聞き取りしながらアセスメントを行っている。

(3) 診療所の見直しについて

- ：管理当直体制の再開とはどういうことを指しているのか。診療科の見直しについてどのようにされていくのか。
- ：当直の医師がいなくなることにより、支援の現場職員にしわ寄せが起こらないよう、支援経験のある職員を当直させることにより、有事の際にその当直職員が支援現場のフォローに入れるよう体制を整えるもの。診療科の見直しについては、入所利用者の減少に伴う経営面での見直しや医師やスタッフの体制について検討していく予定。
- ：看護師の労働環境や労働条件は4月から変わるのか。
- ：労働環境等の変更については、すべての看護師に事前にヒヤリングを行い、4月以降の労働環境等の情報を提供して納得いただくとともに、希望調査をしたうえで体制の見直しを行った。

(4) 第10次寮再編計画について

- ：今後も、寮再編を実施していく予定か。
- ：入所利用者の状況に応じて実施していく予定。

(5) 能登半島地震における被災者の受け入れについて

- ：今後、震災が起こった場合、受け入れの見通し等あるのか。
- ：支援体制の状況と利用者の状況と、それに合わせてのぞみの園として何ができるかという複数の要因を重ねあわせ、さらに、被災状況がその時々で変わってくるので、状況に応じた必要な対応を執ってまいりたい。
- ：10名の利用者を受入れるにあたり、体制を整えるため職員を増員するなどの対応を行ったのか。
- ：現在の強度行動障害寮に配置されている職員で対応している。

- ：全国から被災者を受け入れたとき、予算的な支援はどのようになるのか。
- ：障害福祉サービスとして受け入れる場合は、障害福祉サービス費を運営費に充てる形。被災者を受け入れるためにスタッフの増員を行った場合は、全国社会福祉協議会を通じて人を派遣する応援派遣のスキームがあるのでそれで支援する形であり、この場合は、予算的な支援にはつながるものではない。

令和6年度予算（案）について

- ：予算と比較できるため、来年以降、決算見込みを入れていただきたい。
- ：次回からは実績が分かるよう、お示ししたい。

事故等の報告について

- ：毎年、誤与薬の事故が起きているが、発生防止に向けて取り組んでいるのか。
- ：11月に事故防止強化月間を設けており、医師の講師のもと誤与薬の危険性や再発防止の必要性について講義していただき、職員に周知をしている。また、業務の都合上、出席できなかった職員については、動画を配信して周知するなど、再発防止に取り組んでいる。